

昔のアイヌの人々は、生活のあらゆることを、口で言い伝えてきました。

この本に書かれた物語も、かつては文字ではなく、口で語られる言葉を聞いて楽しむことによつて、人々に受け継がれてきたものでした。

アイヌの物語の多くは、主人公が、自分の体験を、自分で語っていくという物語になっています。主人公になるのは、人間やカムイたちです。

カムイは、日本語で「神」と訳されていますが、アイヌの人々は、人間の生活に必要なものや、それをあたえてくれるもの、人間にはどうすることもできない力を持ったものを、「カムイ」と呼んできました。動物や植物、火や水や雷といった自然だけではなく、家や舟や臼といった道具、病気や災害など、人間の生活に関わるさまざまなものが、カムイ（あるいはカムイによつてもたらされるもの）であると考えられています。

カムイは、人間が暮らすアイヌモシリの上にある、「天の世界」で暮らしています。人間と同じ姿で同じような生活をしながら、「天の世界」で人間を見守り、時には、動物や植物などの姿になって、アイヌモシリへやってきました。そして、動物であればその毛皮や肉、植物であれば山菜や木材というように、人間の生活に必要なものをあたえてくれるのです。人々は、このようなカムイたちの恵みに感謝し、生活のさまざまな場面でお祈りをしました。カムイへのお礼として、お酒やイナウといったカムイが好きなものをたくさん用意し、お祈りをし

ます。カムイたちは、その祈りやお礼を喜び、「天の世界」へ帰つても、またアイヌモシリへやってきました。「天の世界」から人間を見守り続けたりしました。

しかし、なかには人間にとつて悪いことをするカムイもいます。そのようなカムイは、罰として、アイヌモシリの下にある死者が暮らす「地下の世界」の、さらに下にある「六重の地獄」へ落とされました。この「六重の地獄」に落とされたら、たとえカムイでも、もと通りに生まれ変わることはなく、「天の世界」に帰ることはできません。

アイヌの物語には、このような人間とカムイの関わりが、さまざまな形で語られています。

また、アイヌの物語には、いろいろなお話によく登場する人物がいます。人間に生活の仕方や儀礼の仕方を教えたカムイです（もしくは世界をつくったカムイ、あるいは人間の先祖となったカムイといわれています）。このカムイは、地域や物語で呼び名が変わり、北海道では、オキキリマ（あるいはオキクルミ）、サマイエクル（あるいはサマユンクル）、オイナカムイ（あるいはアエオイナカムイ）、アイヌラツクル、樺太ではヤイレスーポと呼ばれています。

オキキリマとサマイエクルの二人は、よく一緒に物語に登場します。「舟になった木のカムイ」の物語のように、一人は悪いふるまいをして不幸に、一人はよいふるまいをして幸運になるという物語が多いのです。実は、この悪者かどうかといった役回りは、決まっているものではないのです。この役回りは、北海道の東側と西側で反対になり、北海道の西側の物語では、オキキリマがよいふるまいをし、サマイエクルが悪いふるまいをしています。

地域や語り手によつて、さまざまなアイヌの物語が、語り継がれているのです。

注釈 物語に出てくることば

意味がわかると、もつとたのしい！

表紙 イソイタク アイヌのことばで「物語ること」あるいは「物語」。

フキノトウになった女の子

6 オイナカムイ 人間に、生活の仕方を教えてくれたカムイ。

6 アイヌモシリ 「アイヌ」はアイヌのことばで「人間」、「モシリ」は、「大地」「世界」。「アイヌモシリ」は「人間の世界」。

8 二つの舞をし、三つの舞をして 何回も何回も舞って、ということ。「二つの、三つの」はアイヌの決まり文句。

12 六重の地獄 六は、たくさんを表わすアイヌの決まり文句。それだけ地下深くにある、あの世のこと。

舟になった木のカムイ

16 シリコロカムイ 大きな木のこと。大地の生き物たちを見守るカムイでもある。「シリ」はアイヌのことばで「大地」、「コロ」は「持つ」。

16 オキキリマ アイヌの物語によく出てくる主人公の名前。

16 イナウ 木をけずってつくり、カムイに捧げるもの。カムイにとつては、とても価値があるもので、よごこんでもらえる。又サ、イナウがたくさん立っている、アイヌの祭壇。

20 交易 自分たちの土地でとれたり作られたものを、遠くに運び、遠くでとれたものや作られたものと、とりかえること。アイヌは、サケや、クマやシカの皮を運び、和人たちの着物や漆の器や、米など、とりかえた。「和人」とは、主に本州に住んでいたり、本州からきた日本人のこと。

22 かわいい肉 やわらかい肉 シリコロカムイは、木の姿をしている。その木のかたいところと、やわらかいところ。

24 サマイエクル アイヌの物語によく出てくる主人公の名前。
26 マトマイ 北海道の南にある、和人が住む「松前」のことだともおられる。

32 魔物にさらわれた女の子
コタンコロカムイ シマフクロウのこと。

人間の村を見守るカムイでもある。シマフクロウは、森があつて、そばに川が流れる開けたところに住んでいた。人間にとつて住みよい場所と重なっていたため、昔は人間の村のそばの森に、シマフクロウの巣があることが多かった。

48 アットウシ オヒョウなどの木の内側の皮から糸をつくり、それを織ってつくったアイヌの着物。
50 アイヌラツクル アイヌの物語によく出てくる主人公の名前。

58 村を守った夢のお告げ
オヤンルル サハリン(樺太)の西の岸のアイヌの言い伝えに出てくる村の名前。「ここではない、ある村」というような意味。「オヤン」はアイヌのことばで「ここではない」「ほかの」、「ルル」は「海」。

58 ヤイレスーポ サハリンのアイヌの物語によく出てくる主人公の名前。
60 トウイマオヤンルル サハリンの西の岸のアイヌの言い伝えに出てくる村の名前。「トウイマ」は、アイヌのことばで「遠い」。「オヤンルル」より、もつと遠くにある村のこと。

出典 物語を語ってくれた人

この本にのっている物語はみな、アイヌのおばあさんたちが、語ってきかせてくれたものです。それを元に、あたらしく、わかりやすく書き直しました。次の本に、おばあさんの話してくれた元のお話が、アイヌ語と日本語とで、のっています。

フキノトウになった女の子

砂沢クラさん (一八九七年～一九九〇年) 旭川(北海道)

浅井亨ほか編『英雄の物語』(財団法人アイヌ無形文化伝承保存会、一九八二年)所収 藤村久和(編)
「オイナ神の妹の自叙伝」より

舟になった木のカムイ

四宅ヤエさん (一九〇四年～一九八〇年) 白糠(北海道)

『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編1』(『四宅ヤエの伝承』刊行会、二〇一二年)所収 「第3話 大地を統率する神の自叙 若いオキキリマと サマイエクルが船材に選んだシリコロカムイ」 富水慶一(採録) 平良智子・田村雅史(共編)より

魔物にさらわれた女の子

平賀エテノアさん (一八八〇年～一九六〇年) 日高(北海道)

久保寺逸彦編『アイヌ叙事詩 神話・聖伝の研究』(岩波書店、一九七七年)所収 久保寺逸彦(採録)
「神話59 村主の鼻神の妹神の自叙」より

村を守った夢のお告げ

藤山ハルさん (一九〇〇年～一九七四年) 来知志(サハリン)

『アイヌ語権太・名寄・釧路方言の資料』田村すず子採録 藤山ハルさん・山田ハヨさん・北風磯吉さん・徹辺重次郎さんの口頭文芸・語彙・民族誌』(環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究ELPR A2-039、二〇〇三年)所収 田村すず子(採録) 「アイヌ語権太方言のアイヌ語音声資料―藤山ハルさんの口頭文芸と歌―言い伝え4」 北原次郎太、田村雅史、田村将人、丹菊逸治、田村すず子(共編)より

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ民話撰集企画編集委員会 企画委員

内田祐一（委員長、帯広百年記念館副館長）

押野里架（委員、白老町役場生活環境課アイヌ施策推進グループ嘱託学芸員）

喜多香織（委員、公益財団法人北海道文学館学芸員）

田村将人（委員、札幌大学専門員・特命准教授）

矢崎春菜（委員、一般財団法人アイヌ民族博物館学芸員）

イソイタク 1

アイヌの昔話 フキノトウになった女の子

発行日 平成26（2014）年3月28日

企画・監修 アイヌ民話撰集企画編集委員会

語り 砂沢クラ・四宅ヤエ・平賀エテノア・藤山ハル

文・編集 寮美千子

絵 鈴木隆一

装丁 松永洋介

発行 公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7

TEL 011-271-4171 FAX 011-271-4181

URL <http://www.frpac.or.jp/> E-mail ainu@frpac.or.jp

印刷 株式会社 クルーズ